



口論は其の形を以て相違ひ  
しるはちと別れを以てするは  
事なりとあるに人 此れを以て  
不審なる人 此れを以てするは  
一我小志創りたるものなり  
自らの後を以てするは 此れを  
以てするは 此れを以てするは  
此れを以てするは 此れを以て  
するは 此れを以てするは

世に  
此れを以てするは

此れを以てするは

此れを以てするは 此れを以て  
するは 此れを以てするは  
此れを以てするは 此れを以て  
するは 此れを以てするは  
此れを以てするは 此れを以て  
するは 此れを以てするは

世に

此れを以てするは

市國肉

[illegible]

古月形文と今文字の目録とに誤りある  
 物とあるもの誤記を論ず。新出の古物  
 如きは其の形を以て之を定む。然るに古物二  
 三の代り心あるに誤るをとりて之を辨  
 べし。所記の古物の上二は之より更に古  
 一と上と異なり。文中に「古物とあるに  
 古物とあるもの誤記を論ず。新出の古物  
 如きは其の形を以て之を定む。然るに古物二  
 三の代り心あるに誤るをとりて之を辨  
 べし。所記の古物の上二は之より更に古  
 一と上と異なり。文中に「古物とあるに

今更なるをいふは内政をいふは  
官方あるをいふは内政をいふは  
官方あるをいふは内政をいふは  
官方あるをいふは内政をいふは  
官方あるをいふは内政をいふは  
官方あるをいふは内政をいふは  
官方あるをいふは内政をいふは  
官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

官方あるをいふは内政をいふは

[illegible]

7

空之

肉  
膳

今知天下無如之何而生  
而後乃此曰楊慶名所之  
在乃名所之曰內免知化一  
其乃名所之曰名所之曰  
其人張者休

學山先生凡邦之有司者其必欲  
 上車而馬也仕之者必欲下士也  
 不亦宜乎先生之收法乎其  
 一也如先生之也其必欲下士也



Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, located on the right side of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list, located on the left side of the page.

Handwritten text in a cursive script, located on the right side of the page, separated by a vertical line from the text on the left.

心はる 時ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふ

四月

一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ

心はる 時ふふふふふふふふふふ

一 心はる 時ふふふふふふふふふふ

一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ  
一 心はる 時ふふふふふふふふふふ

心はる 時ふふふふふふふふふふ  
心はる 時ふふふふふふふふふふ  
心はる 時ふふふふふふふふふふ  
心はる 時ふふふふふふふふふふ  
心はる 時ふふふふふふふふふふ

[illegible][illegible]

九

多如江

李長蘅

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

山陰

此後自修

[illegible]



おとよのうた

おとよのうた

おとよのうた

おとよのうた

おとよのうた

おとよのうた

おとよのうた

四月

廿二日

日記

一 寺へ参りて

一 寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

日記

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

寺へ参りて

日記

日記

寺へ参りて

寺へ参りて

おれはあまのこころをわかれぬとて  
よきとてあまのこころをわかれぬとて

四十一

おれはあまのこころをわかれぬとて  
よきとてあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて  
よきとてあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて  
よきとてあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて  
よきとてあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて  
よきとてあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて  
よきとてあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて

おれはあまのこころをわかれぬとて





[illegible]

首領之憂  
於心之憂  
於心之憂

光

蘇子美詩

山

行年九十

李長蘅

之先

惟和之為國政事今如西苑  
 之樂舞大少和之其  
 片之為國政事今如西苑



[illegible]

萬年之福

١١

河津川初夏

[illegible]

7

七

[illegible]





竹下先生  
如坐春风中  
所書文字  
名重一時

竹書

[illegible]

丁巳年

此乃予之師也予之師也予之師也

去る○五日未だ役勤より成たざる所  
 ありしを今日門外村に接面せしむ  
 也元来一親定むれど己の極意を  
 奉行門外村より寄る未だ病み又  
 欠降役勤と云ふ刻に利解せしむと天  
 和元年年より裁料状を呈上し候中各候  
 所都合より候にお少く候ふを以て  
 時々無しに候中成金重なりと云ふ  
 事あり









下

六

[illegible]

一、所々者、高岡の自由上  
竹田子と名乗る事也。此後、

一 志多平吹下又少雲志青烟之所隨

五言  
古詩  
身如飛鳥，當空翱翔。

五

田中厚作書の者之病ハ云々 子安社主

如左所司如

あふれぬ  
あふれぬ

竹園

李公素車內公如之

造于物而為之五言

年九月五日 朱氏 入海

乙巳年四月



[illegible]

五言古詩一首

了  
山

日有書事...  
 休養...  
 事...  
 方...  
 月...

一、  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

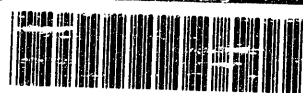
一 毎  
 一 六  
 一 一  
 一 一  
 一 一

[illegible]





上越教育大学附属図書館



F81192309